

■事業名 亥鼻実験教室「からだの仕組みを知ろう:君も研究者だ」

1 主催

千葉大学医学部附属病院臨床試験部

2 開催日時

平成 23 年 11 月 5 日(土)13:30~15:30

3 開催場所

千葉大亥鼻イノベーションプラザ

4 プログラム

臨床研究を疑似体験する実験授業を開催。

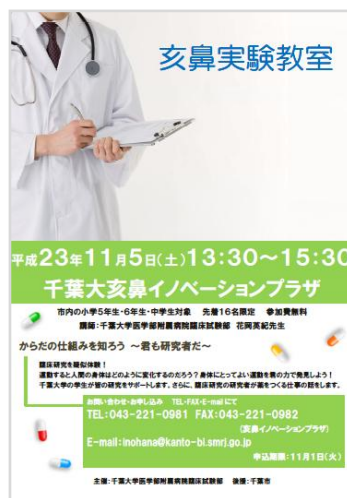
激しい運動をした後に疲労から効果的に回復する方法を調べました。

千葉大学の学生と共同して授業と実験を開発・実施。

附属病院の医師が臨床研究の大切さを解説し、薬を開発する仕事の話をしました。

5 講師

千葉大学医学部附属病院臨床試験部部长 花岡 英紀 診療教授



■開催報告

今回の講座は、平成 21 年度から 3 回目迎えました。当初は、千葉大亥鼻イノベーションプラザが地域開放の一環として、千葉大学医学部・看護学部・薬学部大学祭「亥鼻祭」にあわせた施設見学会を行っていたのですが、より多くの方に来所していただくとともに、次世代を担う子ども達への講座にしようと、千葉大学の協力により開講しているものです。

開講にあたり、花岡先生から本日の講座の趣旨と内容について説明がありました。

その後、臨床試験部の内貴明子先生から、実験の進め方やグループ内での役割分担の説明がありました。

今回の実験では、激しい運動をした後の効果的なクールダウンの方法を探るために、運動後に①座る、②冷やす、③歩く、④縄跳びをする、のどれが一番効果的なのかを調べます。

子どもたちは、グループごとに異なるクールダウンの方法を試みます。実験に先立ち、子どもたちが、今回の実験の被験者である千葉大学陸上競技部の皆さんに実験内容を詳しく説明し同意を得るインフォームド・コンセントのプロセスを実施しました。インフォームド・コン

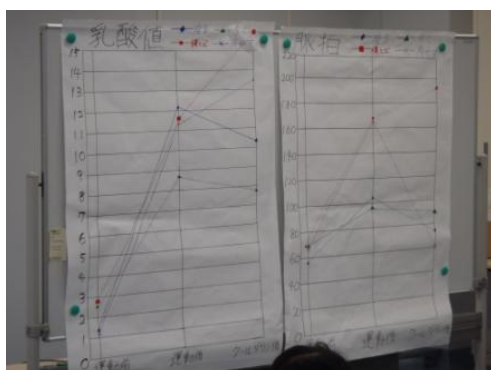


セントを陸上部員から取得したあとで、計測係、記録係、器具係などの役割を分担し、実験を開始しました。

まず、子ども達の指示で被験者が自分で通常時の脈拍と血糖値を計測し、次に、5分間の反復横とび(激運動)を行います。ここで再び被験者自身が脈拍と血糖値を計測し、その後、それぞれのクールダウンを5分実施します。クールダウン後、もう一度脈拍と血糖値を計測し、子どもたちが脈拍と血糖値の変化をグラフ化します。



脈拍と血糖値の変化をグラフで視覚化することで、どのクールダウンの方法が最も効果的だったのかをみんなで確かめ、花岡先生がなぜ今回の実験結果となったのかについて説明しました。今回の実験のように人間の身体の仕組みを知るためには、どうしても実験に参加する被験者さんが不可欠であることを改めて確認し、今回実験に協力していただいた学生さんたちにみんなで感謝し拍手を送りました。



最後に、千葉大学附属病院臨床試験部が作成した薬の開発に関するアニメーションをみんなで見て、閉講しました。

